



## 知的障害教育における領域・教科を合わせた指導をどのように充実させていくか

### 【研究を行った背景】

生活単元学習に代表される領域・教科を合わせた指導は、知的障害の特徴や学習上の特性を踏まえた効果的な指導の形態です。知的障害教育においては、これまで領域・教科を合わせた指導を教育課程編成の中心に位置づけ、特色ある教育課程を編成してきました。本研究では、生活単元学習を中心に、実践上の課題及び指導の充実のための知見を整理し、知的障害教育における指導を支える専門性について検討しました。

### 【研究結果・データ】

生活単元学習の特徴と期待される効果、及び実践上の課題について検討しました。（国立特殊教育総合研究所長期・短期研修員を対象としたブレインライティング法を実施）

生活単元学習を実践している多くの教師が、生活単元学習が子どもの主体性を伸ばし、自立的な生活に必要な事柄を実践的・総合的に学習する効果的な指導であることを認識している一方で、表1のような課題を抱えていることが整理できました。

表1 生活単元学習の実践上の課題

- ・生活単元学習とは何かを明確に説明することが難しい。
- ・子どもの主体性を大切にしようと思いつつも、結果的には教師主導の授業が行われやすい。
- ・子どもの興味・関心を生かした活動設定を重視すると、活動がパターン化、マンネリ化しやすい。
- ・体験的・実際の活動を取り入れても、子どもの実際の生活に般化することが容易ではない。
- ・集団活動の意義を認識しつつも、個々の多様な実態、ニーズに応じた授業設計・展開が難しい。

また、全国の教育センターを対象として、生活単元学習の研修の現状について調査したところ、生活単元学習に関する講座のコマ数は、特別支援教育講座全体のコマ数の6.6%であることが分かりました。併せて、生活単元学習を充実させていくための研修の在り方として、知的障害教育の教育課程や領域・教科を合わせた指導のねらい・意義に関する研修、生活単元学習の単元の構成や授業づくりに関する研修などの必要性が多くあげられました。

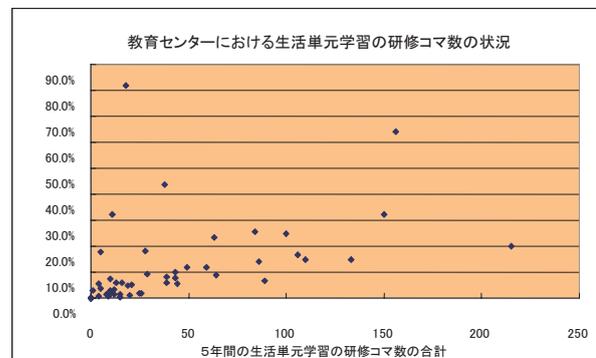


図1 研修コマの割合

知的障害教育の専門性をどのようにとらえるかに関して、上記教育センターを対象とした調査から、子ども理解、知的障害教育に関する知識・技術、教育実践力、子どもに対する共感的対応、保護者、関係者との協力関係形成、研修への意欲・向上心などの観点での知識・技術が重要であることが整理されました。

### 【研究結果からの提言】

上記の結果を踏まえて、生活単元学習の充実を図るには、次の点が重要であると考えられます。

- (1) 知的障害の特徴と学習上の特性の理解
- (2) 発展性のある指導計画の改善・充実
- (3) 領域・教科を合わせた指導と教科別の指導との関連、位置づけの検討
- (4) 子どもの生活を考慮した指導目標・手だての具体化と授業づくり及び評価の改善
- (5) 学校組織としての教育観、支援観の共有とチームアプローチの充実

## 【研究結果の効果・効用】

生活単元学習の充実を図る上で、個人及び組織の専門性向上が大きく関与します。

本研究では、教育センターを対象とした調査結果及び研究協力者との協議等に基づき、障害のある子どもの教育を担当する教師の専門性モデル（試案）を整理しました。

知的障害教育における教師の専門性としては、「人間性に関わるスキル」「組織的に指導を展開するためのスキル」「知的障害のある子どもの理解と指導に関するスキル」等の研修を通して、「組織的な教育実践力」を高めていくことが大切であると考えられます。

## 個のニーズに応じた教育の実現

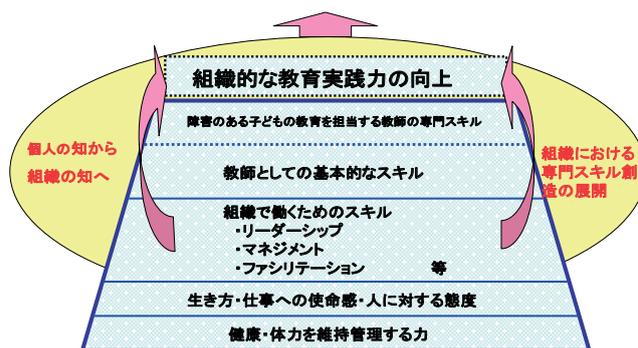


図2 障害のある子どもの教育を担当する教師個人の専門性モデル（試案）

## 【研究結果の活用】

### (1) 校内研修の充実

今日教育センター等では、特別支援教育の推進に関する様々な研修や、軽度発達障害の子どもへの理解や対応などに関する多様な講座編成がなされているため、生活単元学習等に関する研修は各学校で主体的に進めていくことが重要であると考えられます。

### (2) 生活単元学習を実践する教師のためのガイドブックの活用

各学校で生活単元学習に関する研修を進めていくためのガイドとして「生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック」を作成しました。生活単元学習の考え方や特別支援学校及び特別支援学級での具体的な実践例などを盛り込んでいます。

## 【関連情報】

「生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック」～「これまで」、そして「これから」～

本ガイドブックは、次のような構成で作成しています。

- 第1部 生活単元学習の現状と課題～生活単元学習を再考する～
- 第2部 子どもが主体的に活動する生活単元学習の実践
- 第3部 生活単元学習の充実のために
- 第4部 知的障害教育における専門性とは

生活単元学習を実践する教師のためのガイドブックは下記のWebサイトに掲載されています。

[http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub\\_b/b-198.html](http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_b/b-198.html)

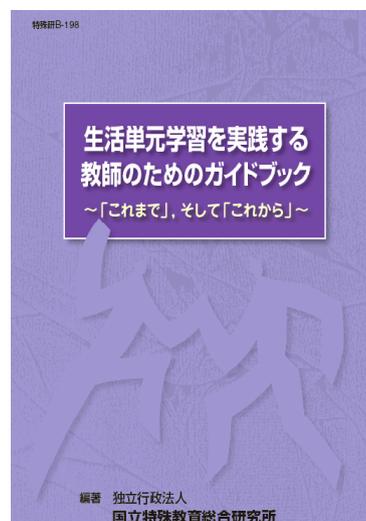
本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

### 【研究課題名】

知的障害教育における領域・教科を合わせた指導と教師の専門性に関する研究  
(平成16年度～平成17年度)

### 【研究組織/問い合わせ先】

研究代表者 竹林地毅（平成16年度）  
木村宣孝（平成17年度）  
(メールアドレス kimura@nise.go.jp)  
研究分担者 小塩允護、徳永 豊、佐藤克敏、  
小澤至賢、涌井 恵、齊藤宇開、  
内田俊行



独立行政法人国立特殊教育総合研究所 (National Institute of Special Education; NISE)

〒239-8585 横須賀市野比5-1-1 TEL: 046-839-6890 URL: <http://www.nise.go.jp/>